

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 2 回審議会				
日 時	平成 25 年 8 月 5 日 (月) 午後 2 時 ~ 4 時				
場 所	生涯学習センター 1 階 一般研修室				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	○ 弓指 義弘	○ 六嶋 由美子	
		○ 迫 きよみ	× 石田 光春	○ 木村 孝	
		○ 杉本 厚夫	× 桑原 千幸	○ 長積 仁	
		○ 森川 知史	× 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 (教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)			
		○ 山下 一也 (教育改革推進室長)			
		○ 安達 昌子 (生涯学習課主幹 (兼) 生涯学習センター主幹)			
		○ 川瀬 章治 (生涯学習課主幹)			
		○ 西村 比口支 (生涯学習課生涯スポーツ係長)			
		× 北池 顕子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)			
		○ 前田 紘子 (生涯学習課生涯学習係長)			
		○ 粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)			
○ 西田 知世 (生涯学習課生涯学習係主事)					
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

前回の会議録について修正事項。以下の通り。

(事務局)

1 . 報告事項

・平成 25 年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について

平成 25 年 6 月 13 日向日市民会館にて開催。出席委員 6 名。

関西大学副学長・社会学部教授 黒田勇氏による講演「社会教育に期待すること」があり、また、向山委員が京都府社会教育委員連絡協議会表彰を受賞された。

(委員)

講演でサッカーの本多圭佑選手の話が出て、彼が「強さとは自分の弱さと向き合うこと」とだと言っていたことが印象に残っている。サッカーといえば昨日京都サンガ F.C. と共催で、人権啓発の催しがあり、宇治市内のサッカー少年たちが、人権宣言をしていて感動した。

(委員)

スポーツといえばこれまで自分がしてこそだと考えていた。最近体の衰えもあり、応援することの素晴らしさを考えるきっかけとなった。宇治の子ども達がスポーツで頑張っているのを応援しようと思った。

・平成 25 年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

平成 25 年 6 月 21 日宇治田原町総合文化センターにて開催。出席委員 9 名。

森川委員長が「これからの社会教育委員に求められるもの」というテーマで講演された。

(委員)

委員長の講演で「人を変えるのは難しいが、自分是被えられる」という話が印象に残っている。自分には難しいと思ったがそこを目指していこうという気持ちになった。講演は時間きっちりにまとめられ、話としての美しさがあった。

・平成 25 年度社会教育委員セミナーについて

森川委員長出席。

日時：平成 25 年 7 月 26 日

会場：日本弘道会ビル（東京都千代田区）

主催：全国社会教育委員連合

(委員長)

全国社会教育委員連合副会長の青山学院大学教授鈴木^{まこと}真理氏（青山学院大学教授）が、「社会教育の再構築に向けて～社会教育振興計画の意義～」というテーマで講演された。副題にはほとんど触れられていない。鈴木氏によると、「社会教育の再構築」は行政側の問題で、社会教育委員がすべきことではないそうだ。主題は社会教育・生涯学習とは何かということであった。社会教育行政に携わる人も社会教育委員も、社会教育・生涯学習が何かということがわかっていない。社会教育委員はそれをきちんと理解し、一般の人にわかってもらえるようにしなければならない。鈴木氏が自身の著作を示し、「これはニーズがないから本屋にはないが図書館にはある。それは読んでほしいからだ。これが学習と教育の違いである。やりたいことだけでなく、時に嫌なこともやらなければいけない、それが社会教育の大事なところだ」おっしゃっていたのが印象的だった。社会教育は学校教育と違い決まりがなく、これが正しいというものがない。社会の中で学ぶことの意味を、社会教育委員が理解していないといけないそうだ。

その後、秋田県大館市の事例研究では、行政を中心に作成した報告書の発表があり、それを一枚の紙にまとめていた。私はよくできていると思ったが、鈴木氏は「行政の押しつけであり、社会教育ではない」と批評されていた。

特に東日本大震災以後、社会教育委員が何をすべきかということは、本審議会で議論する必要がある。どのような話題であれ、今期のテーマを考える上ではその視点を含まなければならない。

・平成 25 年度全国社会教育委員連合表彰について

杉本委員の受賞が決定した。平成 25 年 10 月 24 日の、第 55 回全国社会教育研究大会（三重大会）の開会行事で表彰が執り行われる。

・第 37 回宇治市障害者スポーツ大会について

平成 25 年 6 月 29 日、西宇治体育館で開催した。主催は当事者団体、作業所、通所施設などから集まった実行委員会である。選手参加は 545 名、役員 81 名そのうちボランティアは 57 名。パン食い競争やジュース飲み競争が人気であった。共催としては、山崎パンがありパンの提供を受けた。本審議会からは 4 名の委員が来賓として出席された。

・第 37 回全日本中学ボウリング選手権大会について

平成 24 年 7 月 22 日～7 月 24 日の三日間キョーイチボウル宇治にて開催した。参加者は選手 229 名、監督 42 名。京都府は男女 6 名ずつの 12 名が参加している。そのうち宇治市からは男子 3 名女子 2 名の参加があった。京都府の選手の成績は男子では最高 21 位、宇治市では 111 位、女子としては、京都府では 10 位、宇治市では 52 位であった。ポスター、チラシ、冊子のイラストは城南菱創高校の美術部制作のものから選考し、市内各所に配架した。

・平成 25 年度夏休み子どもフェアについて

平成 25 年 7 月 26 日と 27 日生涯学習センターにて開催。市民のグループや高校生、大学生のコーナー出展もあり、子どもたちに遊びと手作りの楽しみを知ってもらった。二日間で保護者、ガイドを含め 2800 人の参加者となった。有料のコーナーは上限を 500 円と設定。無料のコーナーは 17 店舗、優良は 33 店舗であった。事前申し込みのコーナーは定員を越え抽選となったほど盛況であった。

・平成 26 年成人式実行委員会について

今年度は 6 名の応募があり、平成 25 年 7 月 9 日に第一回実行委員会を行った。

2. 協議事項

・今期の研究テーマについて

（事務局）

前回の議論ではスポーツに関する意見が多かった。本日は社会教育委員会と本審議会のこれまでの報告書を用意している。時間を設けて委員の皆様には、手にとって見

ていただきたい。

< 各委員これまでの報告書を手にとる時間 >

(委員長)

それでは報告書に目を通していただいた上で、今期のテーマについて何かご意見をいただきたい。

府下の社会教育委員の話を知っていると、小さな自治体では社会教育委員自身が地域の活動をしているところもある。本審議会委員はそれぞれ別の肩書きでの活動をしている人が多いが、社会教育委員としては取り組みをしていない。本市の規模ではそれは難しいし、できなくて結構だと思う。今回もその方針でいいと思う。本審議会では社会教育を進めていく上で、本市の社会教育委員として何が出来るかを考え、提案していく。今期は何を取り上げるか、そこを考えていきたい。

最近では、隣の家族と関わらないところが問題だと思う。「孤立化」とよく言われているが、孤立することがいろいろな問題を引き起こしている。他人と接するのが苦手な人が増えている。漠然としているが、こういう社会で、人とのつながりをどのように増やしていくか議論しなくてはならない。

(委員)

昭和末期から平成初頭まで毎年 2, 3 回オートキャンプに行っていた。そこでは自分のテントという縄張りを楽しむために行っていたと言える。家族の絆を強めることが目的だったように思う。雨が降れば、最も効果的だった。隣の人と接する機会はなし、テントサイトも区切られていた。アクトパル宇治のように炊事場の形態であれば、大きなテーブルで隣の家族とも話せる機会があるだろうが、山でのキャンプではそれはできない。

(委員)

最近、赤ちゃんのあやし方や抱き方を知らない人がいる。

今、アメリカから入ってきた、手を離して赤ちゃんを抱けるグッズが売れていて、母親が手を離してスマートフォンを触っているようだ。

「角付くまで膝の上」「かわいい子には旅をさせろ」等、日本では子育てにまつわる深い言葉がある。今の 80 代の方々は実践されていたのだと思うが、今の親に伝わっていないと思う。また、最近観た映画『風立ちぬ』では、兵児帯を使ったおんぶが出てきた。おんぶで子育てをする等、昔の日本人にはいい知恵があった。年配の方々が亡くなってしまえば消えてしまう。このような知恵を、地域で生かすことが必要である。

「兵児帯」...和服における男物の帯の一種。以下の二種がある。 大幅もしくは中幅の縮緬

第6期宇治市生涯学習審議会 会議録

地をしごいて締めるもの。男物の各帯のうち、にならってやわらかい生地で作ったもの。本来「三尺帯」と呼ばれていたものが と混同したもの。

(委員長)

第2期生涯学習審議会で親教育をテーマにした時はどうだったか。

(委員)

民生委員の活動で、十数年前から子育て支援をしており、月に一回公民館で行っている。見守りだけであるが、2~3歳までの子どもや、中には3か月の子どもを連れてくる親もいる。そこで親同士が仲良くなる。しかし、支援の場に出てこない親子もいるので、どうしたら支援できるのか。

(委員)

そういう場で親同士が仲良くなるのを見守るだけでいいと思ってきたが、あやし方、抱き方がわからない、首が座っているかどうかもわからない人が実際にいることを知った。民生委員や、ボランティア等、赤ちゃんと関わっている人は多いが、意識的に子育てについて教えていこうというスタンスを持つことだけでも何か変わってくるのではと思う。

(委員)

笑い話だが、10年ほど前、おむつのCMを見て、赤ちゃんは青いおしっこをすっていると笑っていた人がいた。うちの子は青いのが出ないと真剣な顔で言っていた。そういうことを話せる場が必要ということか。

(委員長)

子ども相手だけが問題ではなく、他人とどう接したらよいのかわからない人が増えている。それがさきほどから話している孤立を深める理由となっている。今話された問題も大きなテーマのひとつとしては言えると思うが、それだけでテーマにするのは難しい。

(委員)

ひとつ付け加えたい。赤ちゃんはしゃべらないから、コミュニケーションを取ろうとしない親がいた。しかしその人は飼っている犬には話しかけていた。「犬にも言葉はないでしょう」と言うと、初めて気付いたようにハッとしていた。赤ちゃんのときにコミュニケーションを取ってもらえないと、心が途絶えてしまう。これを回復させるのは本当に難しいことだと思う。こういうことを食い止めることができたらと思い、テーマにしてほしい。

(委員)

虐待という言葉もあまり言われていなかった、平成 9,10 年度社会教育委員会で『家族～心豊かな生活を求めて～』というテーマを取り上げた。それから 15 年経ち、ネグレクトが出てきた。今や身体的な虐待よりはるかに多い。親の心の問題が大きいと思う。先ほどの乳児の話も重要だとは思いますがその先も含めて、家族というものを見直していくことが必要ではないかと思う。

(委員)

今ファミレスが団らんの場になってきているようだ。普段からしっかりとした家族間のつながりがある家族は、キャンプの際に他の家族と関わるのもいいが、そうでない家族は、キャンプの時ぐらいいは自分の家族だけでいればいいと思う。

(委員長)

ファミレスが出てきたが、家族で来ても子どもはゲームをしている。親は携帯電話を触っている。家族で来ているのにバラバラというのが多い。

(委員)

先ほど私がキャンプによく行ったという話をしたが、私は幼い頃、父親がガソリンを使った明かりの点け方や米の炊き方を知っていて、すごいなと思い、その度に家族がまとまっていったことを思い出す。

(委員)

以前は宇治川で、現在はおうばくプールで「水泳学園」というものをやっていて、もう 54 回目になる。約 120 人の子どもが参加する。クラスや学校が違って母親同士と一緒に申込み、送り迎えもまとめて皆で順番にやっている。そういうグループがたくさんできた。自分たちで考えて、順番も決めて、多いと抽選になるが、友人をたくさん集めて、七人書いていたら落としにくいだろうと、考えて動いている。皆が分担して続けている。地域と子どもを通じて、家族がうまく機能している例だと思った。

(委員)

子どもが小学校に上がると授業参観に行くようになり、親同士が後ろで話し始め、つながりができる。

(委員)

そういう場で、どこのスイミングスクールがいいとか、そういった話が口コミで広まっていく。

(委員長)

この前60年安保闘争の本を読んでいて驚いた。闘争時、炭鉱労働者が最も多く動員されたが、学生組織は寮単位で、町内会は旗を挙げて出ていたという。思想や信条ではなく、皆が行くから動員されていた。否応なしに人との関わりの渦に放り込まれて、人との関わりを学んでいたのだ。これはもともとのムラ社会から、戦後都会化してもしばらく続いていたが、80年代以降は全く無くなった。

「旅の恥はかき捨て」という言葉があるが、仲間内は大事だが外側には無頓着という考え方が、日本には昔からあり、近代以降も人とのつながりを考えてこなかったことが問題だと思う。

また、親が人と関われないのに、子どもが関わることはまずない。個人意識、プライバシー意識、「ほっといてくれ」という意識の広がりをどうするかがテーマだと思う。その中に子育ての問題もある。

(委員)

以前子育てサークルをマンション単位で作った人にヒアリングをしたことがある。その人は昔、町内会の運動会が大好きだったが、マンション暮らしになってからはそのような機会がなくなったという。それに代わるものがほしくてサークルを作ったそう。町内会の運動会を経験している世代は40代から50代頃までだが、今はそういった楽しかった経験をしていない30代の親世代が増えてきている。経験がないから、子どもにも楽しんでもらおうという思いがない。その中で孤立する人が増えている。私はひとりぼっちが好きな人には会ったことがない。誰もが人とのつながりを求めているのだろうと思う。学校以外に必然的に所属する組織が作られてこなかったと感じる。

(委員)

第4期は「人と人とのつながりと地域社会」とテーマであったが、このときに提言や議論ができたこととできなかったところを知りたい。ここと重複しないようにテーマ設定をしたい。

(委員長)

このときはコミュニケーションがどういう問題を持っていたかを調査しただけである。人と人との関係を、コミュニケーションを軸にして提案したが、社会に対してどうしていけばよいかという提言はできなかった。かなり前だが、平成9・10年度社会教育委員会のテーマ(『家族～心豊かな生活を求めて～』)はどうだったか?平成11・12年度社会教育委員会ではボランティアを取り上げている。

(委員)

ボランティアの時は、ボランティアを受け入れる側と、する側の不一致というテーマであった。

(委員長)

今、社会をどうしたらよいかというのは大きすぎるテーマであり、そこまでは提言できないのではないかと思う。

例えば先ほど話題に出た SNS だが、周知するという点では役にも立ちうるし、全てがマイナスだとは思わないが、人間関係の構築においては阻害していると思う。人とつながっているという錯覚をしてしまい、そこに逃げ込んでしまうという面がある。SNS があるために、対面で人と関わることを避けてしまっていることがある。現在もう動いてしまっているものをどうこうはできないが、SNS というものはかなり大きな問題をはらんでいると思う。

そういう意味で、人と人とのつながりを阻害する要因や、逆につながりになる手立てについて議論していくことはできると思う。前はスポーツについて取り上げ、体罰が問題になった。閉じられた場で人をどう育てるか、そこで行き違いが起こることがある。柔道連の女子がコーチを訴えた件も、世代によって考えが変わってきて、たとえ優秀な成績を挙げた人が監督・コーチであっても、盲従するのはいやだという人が出てきている。人とどう向き合えばいいのかというところで、行き違いが起こっているのが原因だと思う。

(委員)

概念の整理をするのか、具体的な行動をするのか、どちらなのか。

(委員長)

本審議会は具体的な行動はしない。提案をするだけである。

(委員)

日本をどう変えるかという話をするより、宇治をどうするかという提言という理解でよいか。

(委員長)

そのためには何が起きているのかをきちんと捉えなくてはならない。

私は講演会などでは、自分勝手にしていると結局自分が生きにくくなるということに気付いてほしいと話している。自分だけの世界に閉じこもって、皆がそうなってしまうと、暮らしにくい社会を作ってしまうということをどれだけ認識してもらえるか、そういう提案をすることはできる。ただ、具体的に宇治でどうするかという難しいことではある。

(委員)

子育てサークルのことでいうと、昔は子育て支援の施設がなかったので誰かが作っ

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

てきたのだが、施設が整ってくると、そこまでは人はいなくなってきた。サークルには入りたいが役はしたくないという人が増える。結局サークルはなくなってしまい、個人で参加するしかないという状況になっていく。

(委員長)

実際に審議会ですういったことを提案することもひとつである。そういうことが起きているということを知らせるように提案をしていくのは大事だ。

(委員)

先ほどの子育てサークルの話の続きだが、サークルを作った人たちがその後どうしているのか一度追跡調査をしたことがあった。PTA の役員や、他の活動をしているということがわかった。しんどいことを担いあった友人と共に今も何らかの役を引き受けている。次の担い手が見つからないというのが問題である。

(委員長)

それも提案すべきテーマのひとつだと思う。

(委員)

本審議会の視察とは別の機会に、私は京都文教短期大学の「子育て支援室ぶんきょうにこにこルーム」を見に行ったことがあり、状態は素晴らしかった。市内に何箇所かあるが、そういうところを利用する方が、いつでも行けるので、利用している人が多い。

(委員)

第 2 期生涯学習審議会(平成 17・18 年度)の提言にいいことが書いてある。テーマは『親教育の支援を考える子育て世代の生涯学習』だったが、「子育て世代の親が地域で他の子も育てる」など。これができていれば問題はないのだが、現状はできていない。このときから 7、8 年経っているのに、現状に沿った形で提言し直すのがいいかと思う。

(委員長)

市民にこういう問題があり、こうしないといけないということを知らしめるために報告してきたが、周知の内容や方法も考えないといけないと思う。これまでは教育委員会に報告するだけで、周知させる方法にまでは議論が至っていなかった。

(委員)

平成 13・14 年度社会教育委員会の提言に「学校を地域化する」「地域を学校化する」とあったが、現在もできていない。

(委員長)

提案のままで終わってしまっている。

(委員)

昨年度の第 54 回全国社会教育研究大会(山梨大会)に参加した時に、社会教育委員がどういうことをしているかについて、川崎市の発表があった。それ以外にも、教育委員と社会教育委員が混同されている。両者が堅い場でなく座談会等で交流をもち、どのように行政に活かされているのか、聞いていると言っていた。宇治市も提言だけでなく、教育委員と社会教育委員の交流の機会を設けるのもいいと思った

(委員)

地域伝承とプライバシーの兼ね合いがある。

私は槇島地域で活動しているが、元禄時代から続く祭がある。一度、若い世代の役員が祭を変えようとし、話し合いをしたが結局は長老の一声で今まで通りやることになったことがある。一部ムラ社会と言える。

最近の小学生は、上級生が下級生を迎えに行かない。時間通りに来ないのが悪いと言う。昔は迎えに行きながら友人と話したものだ。

新しいマンションに子ども会を作るよう頼んだら、プライバシーや騒音(ラジオ体操等)の問題から断られた。その後マンション側から、福祉協議会からの連絡がないという苦情があったが、管理組合はあっても町内会がないので、我々も入れない状況である。

学校や個人の行事で祭等の行事に来ないため、地域とのつながりが無い。「同好の集まりを否定するのか」「宗教・思想が違う」等と言われたことがある。個人の好きなようにという流れがある。近代化と古い伝承のつながりをどう作っていくのが難しい。ムラ社会では長老の一声で決まるので調整が取れるが公平性に欠ける面もある。

(委員)

今の話につながるが、子どもたちと地域のつながりを最も阻害しているのは、学校のクラブ活動だと思う。クラブ活動が最優先になっているので、地域活動に出てこれない。祭りの日は休みにしてくれればいいのだが、神輿の担ぎ手もいないという現状である。

(委員)

北宇治中学校のバレー部、サッカー部のクラブで男女選手を招待して食事を供し、はっぴを着て祭りに参加してもらっているが、はっぴの着方が左右逆になっていたりする。そういうことはしつけられていない。伝統を重視するムラではあるが、つながりをどうしていったらいいだろうか。

(委員長)

こういう方向でのテーマにするか。まだ少し漠然としているのでテーマを詰めていきたいがいかがか。

(委員)

先ほどの平成 9・10 年度のテーマについて質問だが、家族、地域、学校のつながりをどうするかが基本的なコンセプトであった。あと高齢者、情報化に絡ませ、家族のあり方をテーマとした。現代的な問題点を挙げて、例えば三世代のイベントをしてはどうかなどの提案をした。家族内のつながりをテーマにはいなかった。地域内、学校内でのつながりによって家庭内のつながりが見えてくるというスタンスであった。

(委員長)

学校でのスポーツクラブの問題が出たが、ヨーロッパでは地域のクラブが動いている。日本に入れることは難しいと思うが、閉ざされた場での体罰等が問題になっていたり、過重な労苦が先生にかかっているが、地域に根差したスポーツクラブは有効だと思うが、その辺はどうなっているのか？

(委員)

地域型スポーツクラブは経営上の問題と構成員の固定化が課題。文部科学省が 1995 年から推進している地域スポーツ化は、ヨーロッパを手本にしている。生活圏における人のつながりの中でスポーツをやっていこうという動きである。何億円もかけて全国で約 3,000 件のクラブができたが、内閣府のデータによると、1995 年から 2009 年まで、20 歳以上のクラブ所属率は 16.2% のままで全く増えていない。個人でスポーツをするにしても、地域のクラブより従来の人間関係の中だけで行う傾向があるのではないか。都合よく情報収集し、新しいつながりに発展できていない面がある。

(委員)

付け加えると、先ほど祭りの話が出たが、最近はスポーツでつながりを作ろうとしている。1970 年代に行政主導で「コミュニティスポーツ」という動きがあった。地域、町内会が崩壊する事態に対して打ち出したが、1980 年代に突然終わる。スポーツ好きな人が集まるだけで、スポーツのコミュニティに留まり、地域への還元に至らなかった。ママさんバレーのように、全国大会を目指すと、うまい人だけが残ることになる。いろんな人たちを多種目、多指向のクラブを作るのが目標であった。うまくいくのはクラブハウスのあるところだった。人が集まり、コミュニケーションが取れる。個人的には 70 年代にはクラブハウスがなかったことが成功しなかった理由ではないかと思う。今はお祭りよりもスポーツなのかなと思う。

(委員)

私の地域では防災をきっかけに地域づくりをしようとしている。生死にかかわる問題なので、誰もが避けて通れない。これを機に地域のつながりにつなげていくチャンスの時期である。

(委員)

本市の総合型スポーツクラブは困難な状況にある。「宇治には既に体育協会・体育振興会連合会(体振連)・スポーツ推進員という三本柱があるのに、なぜ作るのか」と人に言われたことがある。体振連がない東宇治地域にできたが、大変な状況である。ニュースポーツの指導にしても、黄檗・西宇治体育館ではスポーツ推進員が無料で指導しているが、東宇治スポーツクラブでは有料でやっている。予算の関係でどうにもならないという。

(委員)

私は東宇治地域に住んでいるが、妻はろっ骨が折れても、週に2回月曜日、土曜日にテニス、火曜日に太極拳、木曜日、金曜日はヨガに行っている。それだけやっているが、東宇治スポーツクラブに入りたがらない。勧めてみても行かないと言われる。

(委員)

生涯学習と社会教育の違いだと思う。フィットネスなら一般のところに行った方が、サービスも良く、他人とも関わらなくていい。総合型スポーツクラブは行政が主導で人と人のつながりを重視している。ただ、最近はフィットネスクラブも変わってきて、お客さんを定着させるために人間関係を作るよう環境を整えようとしている。友達を作れば健康になっても辞めてしまわない。総合型地域スポーツクラブは負けてしまうかもしれない。

(委員)

お風呂だけ入りに行く人もいるくらい環境が違うので、負けてしまうのではないか。

(委員)

もしくはスポーツクラブだと思う。アメリカ、イギリスではビリヤードだけして仲間と遊び、ビールを飲んで帰る人がいるという。

(委員長)

私の幼い頃は床屋がそうだった。髪を切らないのに行っていた。そういうところが今はない。

(委員)

本審議会は行政にも市民にも提案をするもので実行はしない。行政にも市民にも。ニーズはここで議論し、シーズ(種まき)をしていく必要があるという理解でいいか。

(委員長)

我々には、あくまで議論を深めて教育委員会に提案するという役割がある。どうシーズするか提案をすることだと思う。

(委員)

社会教育法に則ると、今言ったように教育委員会に答申を出すか、報告書を出すか、提言する。さっき言われたようにそこから一歩進んで行動をするかどうかは考えたらいいと思う。昔社会教育委員と公民館運営審議会委員が一緒になって宇治まなびんぐをやった。我々で仕掛けをして、あとは市民にという方向で始めた。今はしっかり根付いて、我々は呼んでももらえなくなった。シンポジウムを開くか、答申の評価をするのもいいと思う。規則に則った審議会の役割のひとつである。ただ、我々が出て行ってイベントを動かすことはしない。

(委員)

今さっき防災についての意見が出たが、4年前、宇治市で要援護者を支援できるよう名簿を作ろうという取り組みが始まり、ようやく最近情報を開示できるようになった。名簿を見るともう亡くなっている人もいたが。町内会が破たんし、地域が崩壊していく状況だが、向こう三軒両隣を把握していかないといけない。市内には現在 550 ~ 600 の町内会がある。危機管理課がパイロット的に事業を進めているのは3地区、自主的にやっているのは10地区ある。つまりほとんどの町内会ではできていない。昨年の水害の時は、山間部ではそれなりの近隣関係ができていた。今の委員長の発言に、地域の面で少しでも関わるところがあるかと思う。

(委員長)

かなりまとまってきたと思う。方向性は決まってきたので、あとはタイトル付けだと思う。意見を聞いて、次回までにタイトルを決めたい。

(委員)

今日は資料もそろえていただき、活発な意見も出た。子どもから大人まで居心地がよく、住んで良かったと思える、自分の居場所がある、健康的な社会を作ることが大切なことだと思う。震災を機に人とのつながりということが言われるようになったが、自分たちの周りを今一度見回してみて、審議会に活かしたいと思う。

3. その他

- ・平成 25 年度近畿地区社会教育研究大会(和歌山大会)について

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

日時：平成 25 年 9 月 5 日（木）

会場：和歌山県民文化会館、ホテルアバローム紀の国、和歌山県自治会館

- ・ **第 55 回全国社会教育研究大会（三重大会）について**

日時：平成25年10月23日（水）～25日（金）*参加は24日、25日

会場：三重県営サンアリーナ等

- ・ **「源治ろまん 2013」基本方針及び事業計画について**

配布資料のとおり。

- ・ **クールスポットの取り組み状況について**

配布資料のとおり。

- ・ **平成 25 年度社会教育関連当初予算の概況について**

配布資料のとおり。

- ・ **宇治市総合野外活動センター長期運営計画の策定について**

（委員より説明）

平成 25 年度より 10 年間の計画策定。13 年目を迎え、長期運営計画（ビジネスプラン）を策定した。テーマは＜社会の「成熟期」にある野外活動センターのあり方＞とした。発足当初からの 4 つのミッションに加え 5 つのミッションを追加した。これらのミッションを達成するための 9 つの長期ビジョンの設定。

< 次回の会議について >

平成 25 年 10 月 18 日（金）午後 2 時 00 分から